



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.600 2021.4.7

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は 090-2156-3510
お気軽に

東京都が、高齢者・障害者施設、医療機関従事者への

PCR 定期検査を実施!

東京都は、4月2日の知事会見で、国の検査拡大方針への対応として、新年度予算の予備費50億円から、約35億円を使って、

① 4～6月に高齢者・障害者施設の職員へ、月1回の定期PCR検査

② 4～6月に感染リスクの高い医療機関の従事者へ、週1回の定期PCR検査を実施すると発表しました。対象となる施設は、高齢者2344施設（約10万人）、障害者114施設（約1万人）、療養病床を有する病院202病院（約5万人）、精神科病院94病院（約2万人）です。

日本共産党は、新型コロナウイルスの封じ込めに、大規模なPCR検査の実施を求めてきました。党都議団が予算組み替え提案で求めた障害者施設、医療機関への定期検査の実現は、大きな前進です。（のの山けん）

日本共産党北区議員団ニュース

春号ができました

第1回定例会の内容をお知らせする日本共産党北区議員団ニュース春号が完成しました。介護施設等従事者への週1回の一斉・定期的PCR検査の実現など、党区議団の提案で実現した施策や、予算特別委員会での論戦を紹介しています。ぜひお読み下さい。（のの山けん）

赤羽駅東口駅前広場に

路上喫煙対策パーテーション

北区は受動喫煙防止対策として、駅前の喫煙所に順次パーテーションを設置してきました。このほど、赤羽駅東口にもようやく設置され、利用が始まっています。赤羽馬鹿まつりなどでの駅前利用を考慮し、移動式の仕様となっています。（のの山けん）



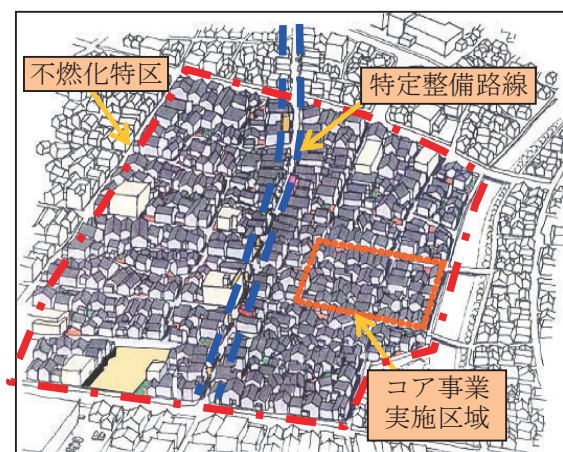
延焼遮断帯としての効果なし

住民訴訟原告団が

岩見良太郎・埼玉大名誉教授の

意見書を提出

3月19日に東京高裁で開かれた志茂地区の補助86号線認可取り消しを求める住民訴訟の口頭弁論で、原告団は、「志茂地区防災まちづくりと特定整備路線補助86号線の問題点」と題する岩見良太郎・埼玉大名誉教授による意見書を提出しました。志茂地区における特定整備路線の必要性は認められないと結論づけた意見書の要点を紹介します。（のの山けん）



木密地域不燃化10年プロジェクトのイメージ

方法論上の問題点

意見書では、東京都が推

意見書は、志茂地区における防災まちづくりを概観した上で、補助86号線の必要性について検討、シミュレーションでも延焼遮断の効果がないことは明らかであり、「特定整備路線を廃止し、本来の防災まちづくりを推進すべき」と結論づけています。

し進めてきた「木密地域不燃化10年プロジェクト」について、方法論上の問題点があると指摘しています。

継承されなかった 防災まちづくり構想

何年もかけて86号線をつくる必要性はありません。

10年プロジェクトは、面的整備である「不燃化特区」と、延焼遮断帯となる都市計画道路（特定整備路線）を重ね合わせて、より高い施策効果を発現させるとしています（図参照）。しかし、市街地全体の不燃化を強力に推し進め、不燃領域率70%を達成すれば、巨額の費用をかけてまで延焼遮断帯を整備する必要はありません。

86号線計画地の南側には、北運動公園や耐火施設が立地し、幅広い防災空間が形成されています。84年に北区が作成した北区防災緑化計画基礎調査報告書では、この防災空間を「带状の不燃ゾーン」と位置づけ、延焼遮断の効果を発揮させることを提言しています。

実際に、志茂1丁目では、すでに2018年度に70%が達成されており、19年度には71・5%と、さらに1%上昇しています。不燃領域率70%は、延焼がほとんどゼロになる水準であり、これか

この防災緑化計画は、96年の防災都市づくり推進計画には継承されませんでした。86号線を建設しなくても延焼を防ぐまちづくりができることを示した方針として貴重なものです。延焼遮断帯として必要がないことがはっきりした補助86号線は、計画をただちに中止すべきです。



のの山けん
区政レポート

通算600号になりました

引き続きのご愛読を、よろしくお願いいたします。